

平成25年度白石市まちづくり交付金事業実績

平成25年度に採択された白石市まちづくり交付金7件の事業実績について報告します。

□沢端川周辺環境美化整備事業（沢端川を守り鯉を育てる会）

多くの観光客が訪れる白石城や武家屋敷への散策路となっている沢端川周辺の赤松や黒松等の剪定、桜の支柱、そして影石を設置しました。このような環境整備により観光客の回遊ルートとしてさらに価値が高まり、観光シーズンには多くの観光客が訪れています。



▲近年、縁結びのスポットとして注目を集めている神石白石内にある赤松を剪定



▲市道調練場北線歩道脇に影石を設置

□史跡の里 大平のふるさとづくり（大平公民館運営会議）

多くの方に地区内の郷土歴史を周知するとともに、地区民の再認識のため、史跡の案内板、各史跡の由来を記した史跡看板、案内表示板を設置しました。これを機に、地区のさらなる活性化が期待されます。



▲大平公民館前に大平地区内の史跡案内板を設置



▲毘沙門堂ほか4箇所に史跡の由来を記した史跡看板を設置



▲訪れる方に分かりやすいよう、案内表示板を設置

□奥州白石噺プロジェクト（大鷹沢一区孝子会）

大鷹沢一区孝子会は奥州白石噺*の舞台である八枚田・孝子堂周辺の景観を維持するために、この周辺の環境整備や八枚田での米の作付けを行っています。まちづくり交付金を利用し、八枚田での米の作付けに必要な水揚げポンプと、田が狭く機械が入らないため田起こし作業で使用する4本鍬を購入しました。（広報しろいし H26年1月号にも掲載されています）

※白石噺とは・・・

寛永13年の夏、現在の大鷹沢「八枚田」で父与太郎と娘まち、妹そのの3人が田の草取りしていた時、片倉家剣術指南役志賀團七が通りかかり、運悪く泥がかかってしまった。父が何度もひれ伏し謝ったが勘弁ならぬと手打ちにされた。娘たちは父の無念を晴らそうと江戸に渡り、由井正雪のもと姉は宮城野、妹は信夫と名付けられ、表向きは女中見習いとして、姉に鎖鎌、妹に長刀を修めさせた。姉妹は見事仇討ちを果たした。その後2人は鎌倉の尼寺に出家したという話。浄瑠璃や歌舞伎で『基太平記白石噺』として脚色され大衆に広まっている。



▲収穫されたもち米の一部は大鷹沢公民館まつりで提供されました



【八枚田位置図】

□神楽装束整備事業（榊流大町神楽継承会）

平成18年5月に白石市指定民俗文化財となった榊流大町神楽*を継承するため、老朽化した装束を新調し、現在もさらなる継承に努めています。（広報しろいし H26年1月号にも掲載されています）

※榊流大町神楽とは・・・

明治初期、大町村の佐藤市郎治氏、佐藤市郎兵衛氏、佐藤彦四郎氏、谷津安治氏、大槻伝吉氏、佐藤留五郎氏の6人が伊勢参りに出かけた際、拝観した優雅な神宮神楽に魅せられ丸森神楽の伝習を受け、私費を持ち寄り用具用品の調達を始め、錬磨を図り、12幕をつくり上げたと伝えられている。毎年春の大鷹沢八幡神社、春の白石神明社、秋の大鷹沢三沢熊野神社の祭典奉納を始め、地区の敬老会や文化祭などで公演を行っている。



▲購入した神楽装束を身にまとい、舞の練習に励む会の皆さん

□三住の歴史と自然と生活の案内板設置事業（三住自治会）

三住地区内の高齢化により代々伝承されてきた昔語りや途絶えようとしていたため、三住の歴史や生活等を後世へ語り継ぐため案内板を設置しました。これにより、住民に歴史の継承と地区の良さを再認識してもらうとともに、訪れた方々にも三住のすばらしさを発信することが期待されます。



▲三住出雲神社の大鳥居脇に案内板を設置しました



【三住出雲神社位置図】

□深谷夏まつり大会（深谷夏まつり実行委員会）

以前までは深谷の一部地区のみで開催だった夏まつりを、地区民全員が参加できる夏まつりにしました。地域の人たちの連携と協力により、当日は老若男女問わず多くの方の笑顔があふれ楽しいひとときとなりました。このような機会を通し、地区民同士のさらなる交流と様々な世代の人たちが地区のことに関心を持ってもらえることが期待されます。（広報しろいし H25 年 9 月号にも掲載されています）



▲金魚すくいは子どもたちに大人気でした



▲お囃子に合わせて踊る方々



□検断屋敷まつり（小原地区活性化推進協議会）

地域資源の材木岩公園と検断屋敷を活用した「検断屋敷まつり」を実施することで、交流人口が増加するとともに小原の自然景観や地場製品のPRにもつながり、地区住民に意識改革がおこり地域の活性化につながっています。



▲夏の検断屋敷まつりの水中スイカ割り大会



▲秋の検断屋敷まつりのだるま落としゲーム



▲冬の検断屋敷まつりのだんご刺し